

がん医療フォーラム出雲 2017

がん患者と家族を支える 在宅療養について考える

日時 2017年7月23日（日） 14:00～16:30

場所 くにびき大ホール（出雲市役所1階）

プログラム

13:30	開場
14:00	開演・あいさつ 総合司会：今田敏宏 (島根県立中央病院 総合診療科部長 緩和ケアチームリーダー)
14:05	開会あいさつ 伊藤 功（出雲市副市長）
14:10～15:00	第1部 基調講演 「がん患者さんを支える情報づくりと地域づくり」 渡邊清高（帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授） 「在宅緩和ケアの現場から 仙台での取り組み」 河原正典（爽秋会岡部医院） 「出雲市の在宅医療の現場から」 花田 梢（医純会すぎうら医院 在宅診療部 副部長）
15:00～15:15	休憩（質問票を回収いたします）
15:15～16:25	第2部 ディスカッション モデレーター：渡邊清高 講演 「出雲市の在宅医療推進に向けた取り組み」 森口修三（出雲市健康福祉部 医療介護連携課 課長） 「在宅看取りを経験して」 山崎順子（在宅看取りを経験した遺族） ディスカッション (パネリスト) 花田 梢、河原正典、今田敏宏、山崎順子、森口修三、 加藤典子（島根県立大学出雲キャンパス 在宅看護論講師 前訪問看護ステーションやすらぎ所長）
16:25	まとめ・閉会あいさつ 今田敏宏
16:30	閉会（アンケートにご協力ください。受付に回収箱を用意しております）

登壇者プロフィール

渡邊清高（わたなべ きよたか）

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科准教授（腫瘍内科・がん情報）
1996年東京大学医学部卒。医学博士（消化器・肝臓内科）。
内科、救命救急研修を経て、東京大学医学部消化器内科、国立がん研究センターがん対策情報センターを経て2014年より現職。地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクトリーダー。患者・家族、一般市民、医療従事者、研究者向けなど、がんに関する信頼できる情報発信と、現場のニーズに応じた普及の取り組みを実践しています。



河原正典（かわはら まさのり）

爽秋会岡部医院医師
名古屋出身。専門は在宅緩和ケア。
1999年福島県立医科大学医学部卒。外科医として、仙台医療センター、仙台厚生病院などに勤務。2008年4月より爽秋会岡部医院に勤務し、故岡部健とともに、仙台圏の在宅緩和ケアに取り組み、現在は、全国の在宅緩和ケア・緩和医療の普及に取り組んでいます。



花田 梢（はなだ こずえ）

医純会すぎうら医院 在宅診療部副部長
島根大学医学部付属病院および島根県立中央病院で初期研修、2007年より医療法人陶朋会平成記念病院内科常勤医師。2009年より（公財）島根県環境保健公社総合健診センター勤務、2015年よりすぎうら医院在宅診療部勤務、2016年より現職。市民団体「出雲いのちをみつめる市民の会」代表として、人生の最終段階における意思決定や過ごし方について日ごろから考えてももらう市民啓発活動を行っています。
プライベートでは3世代8人家族で暮らしながら3人の男の子の母として日々奮闘しています。



森口修三（もりぐち しゅうぞう）

出雲市健康福祉部医療介護連携課課長
1999年国立南和歌山病院（現・独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター）。2001年厚生労働省へ出向。その後、医政局指導課（現・地域医療計画課）救急・周産期医療等対策室小児・周産期医療係、救急医療係などを経て、2016年から現職。現在、在宅医療と介護の連携、認知症施策の推進、介護予防・生活支援サービスの体制整備など地域包括ケアシステム構築に向けた取組に携わっています。



山崎順子（やまさき じゅんこ）

出雲市鳶巣コミュニティセンターチーフマネジャー

出雲市斐川町生まれ 社会教育主事 青少年育成アドバイザー。2001年4月出雲市農業協同組合金融部不動産相談センター退職後、出雲市鳶巣公民館主事として勤務。2002年出雲市は公民館をコミュニティセンターに名称に変更。現在に至る。地域のさまざまな団体と協働のもと、誰もが安心して生き生きと暮らせる「健康と福祉のまち鳶巣」を目指して様々な事業を展開しています。

プライベートでは、被災した動物や保護犬、保護猫の支援活動を行っています。2014年には末期の乳がんのノラ猫を看取り、2015年には行き倒れていた認知症の犬を看取りました。



今田敏宏（いまだ としひろ）

島根県立中央病院 総合診療科部長、入退院支援・地域医療連携センター長補佐、緩和ケアチームリーダー

1997年自治医科大学卒。島根県内の中心核病院などで内科医として地域医療に従事し2006年から島根県立中央病院 総合診療科医長。2010年がん地域連携WGリーダー。2014年緩和ケアチームリーダー。2016年入退院支援・地域医療連携センター長補佐。2017年より現職。総合内科専門医。プライマリ・ケア認定医・指導医。「いのちの輝きを考える日」実行委員長。

緩和ケアとは生きる力を支えるケアです。治療と並行して行えるように支援しています。



加藤典子（かとう のりこ）

島根県立大学出雲キャンパス 看護学部 在宅看護論講師

1982年聖路加看護大学卒。聖路加国際病院内科・CCU勤務後1986年退職。

1996年松江市転居後、松江市立病院医療相談室、島根県看護協会、訪問看護ステーションやすらぎ管理者を経て、2016年より現職。前職では、島根県ステーション協会松江支部役員として、地域での多職種協働のための研修企画などに携わる。訪問看護師の人材育成や就業継続支援等に取り組んでいます。



～ アンケートにご協力ください ～

フォーラム後半のパネルディスカッションにて、皆さまからのご質問をお受けいたします。お手元の【質問票】（黄色）にお書きいただき、休憩時間内に、受付もしくは係の者にお渡しください。

また、フォーラムが終了しましたら、【アンケート用紙】（ピンク）にご記入いただき、出口の回収箱にご投函いただくか、係の者にお渡しください。

今後のこうした取り組みを全国に広げるための参考とさせていただきますので、ぜひともご協力の程、よろしくお願ひいたします。

アン
ケート
用紙

質問票



地域におけるがん患者の療養支援情報普及と活用プロジェクト

<http://homecare.umin.jp/>



がん患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報をまとめました。これまでのがん医療フォーラムでいただいた声、在宅での療養をよりよくしたい患者さん、ご家族の意見や提案をまとめた形でつくられています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、がん患者さんを支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。



「在宅療養ガイド」制作と プロジェクト創設にいたるまで



渡邊 清高 さん
(帝京大学医学部内科学講座 准教授／腫瘍内科・がん情報)

公益財団法人 正力厚生会

<http://shourikikouseikai.or.jp/>

正力厚生会は、読売新聞東京本社からの寄付金などをもとに「がん患者さんとそのご家族を支援する」事業活動を行っています。主な助成実績は次の通りです。

[がん患者団体への助成]

がん患者団体による講演会開催や情報発信のためのサイト構築などの事業に対し、上限50万円を贈ります。2007年度からこれまでに、延べ240団体に助成してまいりました。詳細は正力厚生会の公式サイトをご覧ください。

[医療機関への助成]

当フォーラムにかかるプロジェクト（2012年度から）のほか、△国立がん研究センター相談員養成講座（2006年度からの5か年）△がん研究会有明病院データベース作成（同）△医療機関による「がん」がテーマの小冊子作成（2010年度までに計10冊）△東京大学医学部附属病院との共催シンポジウム△静岡県立静岡がんセンター「Web版がんよろず相談Q&A」構築一があります。

[読響ハートフルコンサート]

QOL（生活の質）向上の一環として、2007年度から読売日本交響楽団のメンバーが全国のがん診療連携拠点病院などを訪問。弦楽四重奏を中心に患者さんやご家族の皆さん、医療従事者の皆様に質の高い音楽を楽しんでいただいている。これまで67医療機関で開催しました。2017年度末で、72医療機関になる見込みです。